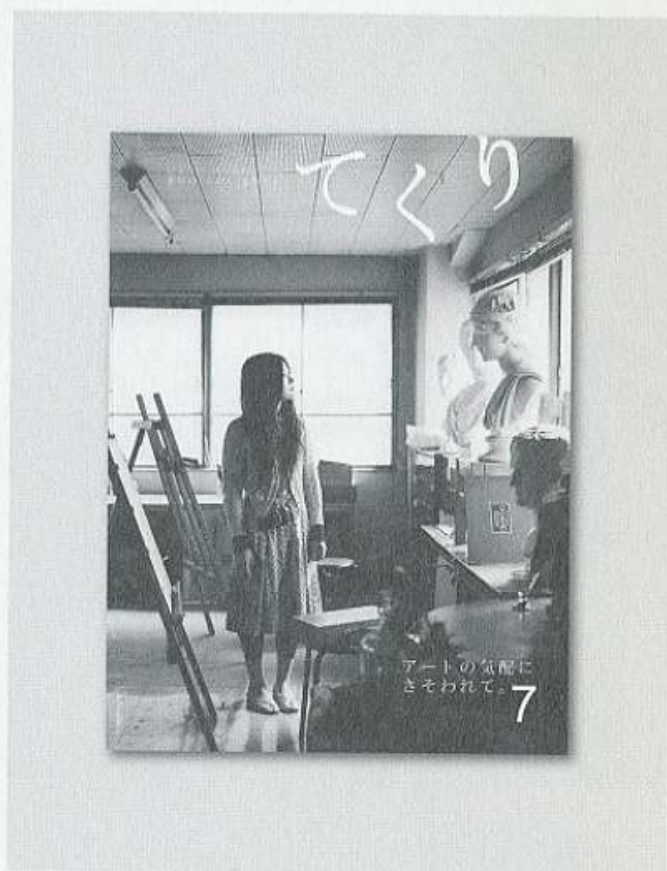


岩手県洋野村。「一人一芸」を目指す、という旧大野村に1991年にオープンした大規模施設。施設といってもひとつの建物というわけではなく、入浴施設、パークゴルフ場、牧場にさまざまな工房、道の駅など、文化と産業そしてレジャーが複合していて、大自然のなかに存在するひとつの「地域」のような感じ。乗り物やアトラクションによって、誰かに楽しませてもらうのではなく、自らが参加して体験して楽しむ、そんな場所です。食べる、遊ぶ、泊まる、すべてそろっているこの空間で、お年寄りの知識にふれ、子供たちにパワーをもらい、みんなが笑顔になる、そんな空気のよい場所です。

おおのキャンパス／大野ふるさと公社



「盛岡に生活する人の視線で街の魅力を発信しようと、フリーランスで活動しているライター・デザイナーがユニットを組み、年2回、毎号約3000部を発行しています。自分たちが取り上げたいものを自由な形で表現したいので、広告を掲載せず、本の売り上げと読者からの協賛金で制作。そのため〈タウン誌〉ではなく〈ミニコミ誌〉と位置付けています。他県からの移住者に盛岡の魅力を聞くと、中心部に鮭が遡上する清流がある、山海の幸に恵まれ食べ物がおいしい、南部鉄器やホームスパンなど手仕事の技が現代の生活に息づいている、詩人や画家を多く輩出するなど文化性が高い、といわれます。そうした点を地元市民にも知ってもらいたいと、特集のテーマに取り入れています」(談)

『てくり』／まちの編集室  
 談話：てくり編集部